

第 1 回 南砺市行政改革懇談会 会議メモ

平成 17 年 7 月 12 日(火)

午後 2:05~4:16

福野庁舎 講堂

出席者

懇談会委員

川合友之、斉藤昭一、藤井 貢、清水壽一、北田正雄、塚田久俊、寺井孝夫、中藪淳一
長尾治明、石黒厚子、奥村晃治、麻生 博、石崎直樹、岩田繁子、野村玲子、野原一司

行政改革推進本部

溝口市長、清都助役、梧桐教育長、向川市長公室長、上坂企画総務部長、大和民生部長
堀産業経済部長、畑建設部長、平本議会事務局長

事務局

三谷総務部次長、青島行政管理室長、石崎、小森、森

以上 30 名出席する

傍聴者

報道機関

【開会宣言】

【委嘱状交付】

【市長あいさつ】

- ・平成 17 年度の予算は、全体会計で 627 億円、一般会計で 357 億円となり、その中には公債費も含まれる。公債費の 17 年度末現在高見込では、全会計で 801 億円、一般会計では 492 億円ある。
- ・旧 8 町村から引継いだ施設が多いが、これは旧町村が自己完結型を目指したためである。また、職員数も多い。合併協議会での協議では、職員を 10 年間で 200 人ほど削減することになっている。
- ・合併したことで、年間約 6 億円の経費節減となった。内容は 8 町村に 3 役がそれぞれいたが合併により 3 人に、また、議員数が大幅に削減され 34 人となった。節約した経費は、固定資産税率を低い町村に合わせる低減化や保育料軽減化等により不足する財源分として使っている。
- ・平成 17 年度の一般会計では基金を 29 億円取崩している。市の貯金の約半分を崩すこととなる。
- ・改革は、出来るものから実施し、時間をかける必要がある。長期と短期の改革に分け聖域を設けず果敢に行いたい。しかし、旧町村の信頼や絆は壊すことが出来ない。市民の皆さんの理解と協力を得て市全体を早く一体化、同化させたい。
- ・南砺市行政改革の主要項目として
 - 1 財政の健全化
 - 2 事務事業の整理統合（民間委託の推進）
 - 3 施設のあり方（指定管理者制度）
 - 4 定員の適正化計画の推進
 - 5 行政組織機構の見直し
 - 6 市民との協働
 - 7 市民の負担を軽減しサービスの向上に取り組まなければならない。

【委員の紹介】

【会長・副会長の選出】

会長 長尾治明氏 副会長 北田正雄氏 が選出される。

長尾会長あいさつ

- ・経営サイドから企業経営の研究を行ってきた。それを行政サイドに知恵を出したい。コスト削減を具体的にどのようにするのか問われている。
- ・歳入を増やすのは厳しい。歳出をどのように抑え、歳入に見合ったサービスをどのように行うのかが大事と考える。
- ・市長から7つの改革提案を示され、その方向に向けて提言を終結できればと思い、皆さんと共に頑張りたいのでご協力をいただきたい。

北田副会長あいさつ

- ・合併時から南砺市に携わってきたので、もう少し皆さんと共に汗をかきたい。実のある懇談会になるよう努力して行きたいので皆さんのご協力いただきたい。

【協議事項に入る】

【事務局説明】

- ・行政改革懇談会の取組みについて
- ・南砺市の現状について
- ・添付資料 について説明

【意見交換に入る】

委員 委員として具体的にどこまで検討していくのか

事務局 推進本部の中に職員からなる幹事会があり、その中で具体的な職員提案による改革案も出てくる。それがまとまったら懇談会に提示し、このことについてもご意見をいただきたい。

委員 次回には、改革案が提示できるのか

事務局 改革案の取りまとめを8月12日までとし、その後、事務局で整理して行きたい。次回どこまで提示できるかわからないが、中間報告をしたい。

委員 施設の一覧表があるが、施設の利用状況のわかる資料がないのか。

市長 事務局に調べるように命じてある。一覧表の平や上平の保育所はそれぞれ2箇所あったが、1箇所にまとめた。

委員 市が危機的財政状況だと聞いて心配している。懇談会の進め方や今後のスケジュールはどのようになるのか。

事務局 提言をいただいた後、大綱を作成し3月に市議会に報告。懇談会は今回を含め5回程度考えている。次回は8月23日を予定する。進め方は、今後的を絞って解りやすく示して行きたい。

委員 市長の言われた7つの主要項目について大綱を決めるので、そのことに提言をいただきたいという判断で良いのか。また、大綱がどれだけ具体性をもったものになるのかわからないので、具体的な内容についても提言を求めているのか。

市長 ご質問の大綱内容は、総括的なものとして抽象的になるが、職員定数管理の定員管理計画などは別に作成することから、大綱には盛り込まれるが、具体的なことについては別に示すものとなる。具体的な討論については、1つは個別のデータや議題を示し、検討いただくか、もう1つは、推進本部で行う実施計画が出来てくるはずだが、それにご意見をいただきたいと考えている。抽象的な方針や具体的な大きな問題が合わさって検討いただきたいと

考えている。

- 委員 市から示した「大綱の骨子」はよく出来ていると思う。具体的な項目はないがこれで良いのでないか。細かい一つ一つのことを検討しようにも、我々委員は専門家ではない。行政当局の目標や意気込みがどの程度やれるのか、市当局が指針を示したもので、現在の行政規模をどの程度縮小するのか、改善効果があるのかをこの会で話しするのが役目でないかと思う。
- 会長 素案は行政当局が作り、それを委員が目を通し、見落とした部分やこの部分はどのように考えれば良いという考え方ですね
- 委員 民間の企業にいるが、当方は2つの企業を一つとした。南砺市は8つを一つにしたということで、その統合効果、過程を踏まえ、民間のやってきたことを行政ではどのように生かされるのか、意見として述べて行きたい。
- 委員 全員が問題意識を持ち参画することが重要。財政の健全化については、民間企業も同様に赤字への転換ということで社員が一丸となって取り組んでいる。全員が問題意識をもって取り組むことは行政もいっしょである。当銀行も今まで、いろいろと経験して来たので、何か役に立ちたい。10年後を考えた提言もあれば、明日を考えた提言も良いのでは。
- 委員 私は民間企業なので常にリストラを行ってきた。この懇談会の位置づけについて確認したい。懇談会なので意見の言いっぱなし、聞きっぱなしで好きなことを言って良いのですね。
- 市長 そのとおりです
- 委員 職員の削減については10年と言わず、前倒しの5年で行う気持ちで行ってほしい
- 委員 懇談会ついて一回一回を大事に勉強し、この会をすばらしい会にして行きたい
- 委員 行政機構の見直しや財政の立直し、施設の削減などマイナス面の意見が聞かれる。施設を生かす、人を生かすときはどうするのかという事が見えにくい。この面が良い結果でまとめれば市の特長にもなる。
- 委員 PDCA の考え方で良い。指定管理者制度で安ければいいという資料だけでなく、逆の資料もあれば良い。
- 委員 施設の見直しや定員の適正化で職員の削減について話されているが、婦人会員の声を聞かなければいけない。また、地域審議会の皆さんが集まっておられるので地域の声も聞かせてほしい。
- 委員 10年前の決算と予算を比べると人口減少に比例して予算額などが減少したが、地方債残高が大幅に増え大変な財政状況だ。行政サービスが低下しないよう、特に窓口対応を大事にお願いしたい。
- 委員 地域審議会の代表だが、地域の声を出すためにだけに委嘱されたのではないと思っている。大局的に見て意見を出して行きたい。
- 委員 施設には、地域の伝統文化に根ざしたものもある。大まかな施設の改革の方向を示してほしい。
- 委員 商売をしたことがない人に、商売をせよといっても困難。民間と行政の交流の場をもっと持つべきだ。
- 委員 次回も、先に資料をもらい皆さんと議論して行きたい。
- 委員 実のある懇談会にしたい。そのために知恵を絞り出し、本部長には思いきった行革をしてほしい。応援して行きたい。
- 市長 ・委員の皆さんの発言を参考に、市長の責任で行革を進めるので、自由に発言して頂きたい。

- ・市の借金である地方債については、後年、交付税で返ってくるものを優先にして起こしている。
- ・これからは収入が増えない。出す方を抑えるしかない。
- ・これまで国や市町村にお金を出してもらった長年の慣習が付いている。これからは、受益者負担の考え方を強く持つべき。受益を受ける住民が自分でお金を出すことを基本として、それを行政がお手伝いするシステムを持つべきと考えている。
- ・これからは、今までと違うことを少しずつ行わなければ行けない。

会長 新たな仕組みづくりが求められている。これまでは行政がリーダーシップを発揮し市民を統率してきたが、これからは地域社会の市民や企業が主体性を発揮し、行政がバックアップしていくという考え方が問われている。特に、市民等の意見に耳を傾け政策に反映していく必要があるし、政策決定においては集中と選択の視点から検討していくことが求められている。

次回は8月23日開催を確認。

【閉会宣言】